

問題解決型(縦割り自己完結)から価値創造型(動的ネットワーク)へ 市民型公共事業・霞ヶ浦アサザプロジェクト

霞ヶ浦流域の環境を改善し、生物多様性を育むアサザプロジェクトは、NPO や企業、地域住民、農林水産業、地場産業、教育機関、行政など、様々な主体が協働で取り組む「市民型公共事業」です。

1995 年に始まり、これまで延べ 20 万人の市民や 200 校以上の小中学校が参加してきました。下図のように、環境や福祉、教育などの従来の分野間の壁を越えた事業を 3 県 24 市町村にまたがる 2200 平方kmの霞ヶ浦流域で展開しています。

このプロジェクトの効果として、たとえば、漁業再生・外来魚駆除により、水質汚濁の原因物質であるチッソ 310 トン、リン 87 トン(年間)を取り出し、浄化しています。さらに、年間 308 億円の漁業利益増が見込まれています(大手シンクタンク試算)。一方、従来の公共事業(霞ヶ浦底泥しゅんせつ事業・年間 95 億円)の効果は、チッソ 43.8 トン リン 4.5 トンに止まっています。

縦割りの壁を越えた新たな人や物・資金の動きを作り、「行政中心・依存」から、行政もネットワークの中で機能する「行政参加」へと発想転換をし、企業には新たなビジネスモデルを、地域には新しい公共を創造していきます。こうした取り組みは現在、秋田県八郎湖流域や三重県、沖縄県内の過疎地域、東京都内や北九州市の都市部を含む様々な地域でも広がりをみせています。

様々な主体が参画し、ネットワークとリソースを活かした事業によって、地域全体へ波及効果を生む「市民型公共事業」は、少ないコストで最大限の効果を生み出すことが期待される「新しい公共」のプロジェクトのモデルのひとつといえます。

